



動物と出会い 人と触れ合って 心のときめきをコーディネートするために — ZOO VOLUNTEER

円山動物園
ボランティア会

ふれあい・コンタクト

ニュースレター第54号 2012(平成24)年10月25日発行 発行責任者:佐藤國男(代表世話役)

〒064-0959 札幌市中央区宮ヶ丘 3 札幌市円山動物園内 円山動物園ボランティア会 TEL(011)621-1426(円山動物園)

9月16日(日)スナック



アジアムーンの見どころ(イメージ図)



アジアゾーン解説

「アジアゾーン」は、地理や気候の違いなどアジアの環境の多様性ととも、希少種の保存や生息域保全の大切さを伝えることを目的とした施設であり、「寒帯館」・「高山館」・「熱帯雨林館」の3棟で構成されています。

展示方法は、動物が生息している自然環境をできるだけ再現し、動物本来の行動を引き出すとともに、動物と観客のいる場所が一体となって感じられる「生息環境展示」を採用しました。

屋内の観覧スペースを広く設け、屋内からも外放飼場にいる動物をご覧いただけるようにし、季節や天候に関わらずゆっくりと観覧をお楽しみいただけます。

また、希少種の飼育場は従来に比べて豊富なバックヤードスペースを有しており、積極的に繁殖を行っていくことが可能となっています。

さらに新エネルギーの利用にも取り組んでおり、「寒帯館」では屋上に10kwの発電能力を有する太陽光発電設備を設置し、館内の電力を賄うとともに、余剰電力が生じた場合には隣接する施設へも給電します。

「高山館」ではヒマラヤグマの外放飼場裏手に雪の貯蔵場所を設け、その融雪水を使い、レッサーパンダの屋内エリアを冷房する雪冷熱システムを設置します。また、このシステムによる冷風を体感頂ける吹き出し口も備え付けます。

「熱帯雨林館」では環境に優しい、木質バイオマスを使ったペレットボイラーを設置しています。このボイラーで作られる温水を館内の暖房に活用します。

各館の見どころ

(1) 寒帯館

寒帯館ではアムールトラとユキヒョウを展示します。

アムールトラの展示では、雪の中、木々の間を悠々と歩く姿を、室内からガラス越しでゆっくりとご覧いただけます。

暑い夏には木陰で寝転んだり、水浴びする様子を間近で観察できます。

ユキヒョウの展示では、高い岩場を再現しました。ユキヒョウが岩場に勢いよく駆けあがる様子をご覧いただけます。また、屋外の放飼場には、ユキヒョウの体を下から檻越しに覗けるスポットがあります。

(2) 高山館

高山館ではレッサーパンダとヒマラヤグマを展示します。

ヒマラヤグマが、高い丘に登ったり木登りしたりする様子をご覧いただけ、暑い夏には、水遊びをする様子をガラス断面から間近で見ることができます。

レッサーパンダが、屋外のハルニレの大木や吊り橋の上に登る様子をご覧いただけます。また屋内展示場では、来園者の頭上に設けられた「渡り木」

の上をレッサーパンダが行き来する様子の一部、ガラス面の上を歩く様子を下から観察できます。

(3) 熱帯雨林館

熱帯雨林館では、マレーバク、マレーグマ、ワウワウテナガザル、クロザル、シシオザル、カンムリシロムク、コツメカワウソ、アジアアロワナを展示します。

屋内展示場は、熱帯雨林の雰囲気の中を探索しながら、動物たちの声・ざわめきなどを感じていただける展示となっています。また、各所に隠された動物達の足跡や糞、木の実などのレプリカを探しながら館内を回ることができます。

暖かい季節には、屋外展示場にて、テナガザルが池に囲まれた島まで木々の間を抜けて長い手を使って移動する様子や、マレーバクが池で水浴びしたりマレーグマが木登りしたりする様子を同時に眺めることができます。



キーパさん紹介インタビュー

柏渕 幸治さん (シマウマ、ダチョウ担当)



Q 動物園勤務は、いつからですか

A 昨年(2011年)4月、西清掃事務所から来ました。動物が好きだから、希望を出しました。

Q 今までに強く印象に残っていることは何ですか。

A 昨年の夏にダチョウの『バロン』が死んでしまったことです。

Q 仕事で難しい点、気を使っている点はどんなことですか？

A 難しい点は、動物の気持ちがわからないことです。

シマウマは、特に神経質な動物で、何か気に入らないことがあるのだろうと思っても、それが何かわからない。ちょっとした変化にも敏感で、これくらいだったら大丈夫かと思っても気に入らなかつたり、急に変えるのはイヤみたいです。

草食動物は、事故が多いので気を付けています。動物と同じ空間にはいるため、キックされたり、倒される危険があります。

Q 担当動物の見所やアピールポイントは何ですか？

A ダチョウは、卵や羽を使ったガイドをやっています。早く走るためにツメが二本しかないこと、長い腸を持っていて、36時間かけて消化するため吸収率が高いこと、環境に適応した機能的な鳥であること。

シマウマのシマシマは、サバンナでは目立つと思うが、群でいるとどれがどの個体かわからない カモフラージュになっていることなどがあります。

Q 将来の夢を聞かせてください。

A 出来れば長く動物園に勤めて動物の魅力をみんなに伝えたいと思っています。

動物の魅力はかわいさではなく、機能的であると語る柏渕さん、動物の魅力をたくさん語っていただきました。シマウマは、歳をとれば警戒心が強くなるため、『スモモ』は、なかなか寄ってこないが、こっちに来てくれたときは、嬉しいと仰っていました。

お忙しい中、楽しいお話を聞かせていただき、有難うございました。

慰霊祭

9月24日午後、昨年9月からの一年間に物故した『トニー』

『円夏』など、52種93点の慰霊祭が開催されました。

幼稚園児・一般参加者・子供動物園のポニー達・動物園関係者などの献花のあと「亡くなった動物が、主人公としてのそれぞれの思い出を私たちの心にとどめてくれたことを感謝したい」と見上園長が締めくくり、今年の慰霊祭を終わりました。

工藤桂一まるやま動物園基金 設立

今年一月に亡くなられた工藤桂一様のご意思により寄付された一千万円を活用する事業の活用開始式が9月30日行われました。

チンパンジー放飼場の遊具や植樹に使われるほか、ボランティア活動のためにも応援していただけることになりました。

これからもお客さまに喜んでもらえるために頑張っていきたいと思います。

ナナスケ 旅立ち

10月14日にお別れ会の行われた『ナナスケ』が、10月20日静岡市立日本平動物園へブリーディングローン目的で出発しました。静岡には、雌の『リン』が待っています。将来の繁殖が成功するよう祈るばかりです。

おわび

54号に八期生の皆さんの紹介をかねて一言を掲載すべく原稿を募集しましたが、アジアゾーンの特集にスペースを割いてしまい、掲載できなくなってしまいました。寄せてくださった原稿を掲載できず申し訳ありません。次号以降での掲載を考えますのでお許し下さい。

【編集後記】前号まで、編集に明るい方のご協力を頂いていましたが、今回は編集委員だけで編集を試みました。石橋係長はじめ8期生にもお手伝いいただきました。ありがとうございます。今後とも改善に努めてまいります。

■編集責任者：上田得一 ■編集スタッフ：小熊 瞳・松山幸子・高橋しのぶ・大地 淳・田中茂雄・田中一江・星原恵子・水戸久仁子・山川泰弘・小松久恭・成田 愛・加藤啓子

